



目 次

1. 本計画について

- 1-1. 本計画の目的
- 1-2. 計画区域
- 1-3. 夜間景観の性質と各区域の夜間景観形成方針

2. 長門湯本温泉の夜間景観のめざすもの

- 2-1. 基本の考え方【夜間景観重点地区・あかりのマスタープラン】
- 2-2 要素の整理
- 2-3 .【夜間景観重点地区】における あかりのゾーニング
- 2-4 .【夜間景観重点地区】における各ゾーンの考え方

3. 各ゾーンの方向性

- 3-1. お出迎えの駐車場
- 3-2. 竹林の階段
- 3-3. 雁木広場（恩湯前・きらきら橋付近）
- 3-4. 紅葉の階段
- 3-5. 棚田スロープ
- 3-6. 各橋梁
- 3-7. 音信川の演出
- 3-8. 音信川右岸・左岸 道路の照明
- 3-9. 音信足湯からのビュー
- 3-10. 桜の演出・河川公園
- 3-11. 大寧寺参道“お地藏小道”

4. 照明制御について

5. 民間のあかり : 『長門湯本温泉景観ガイドライン（夜間景観抜粋）』

1.本計画について

1-1.本計画の目的

本計画の背景)

長門湯本温泉は「礼湯」「恩湯」というふたつの外湯を中心とする深い歴史を有し、豊かな自然環境とともに音信川河畔に立地する、古参の温泉街である。しかしながら、宿泊客数は昭和58年の39万人をピークに減少し、直近では年間20万人程度と低迷している。こうした中、かつて広がっていた情緒ある温泉街、そぞろ歩きを楽しむ観光客の姿も徐々に失われ、商店の減少や150年の歴史を誇る老舗ホテルの倒産などにより、現在では、遊休地が多く見られる閑散とした温泉街となっている。

市と地域は、この厳しい現状を直視し、再生に向けたビジョン構築に着手、長門湯本温泉に進出する星野リゾートと連携し、平成28年8月に「長門湯本温泉観光まちづくり計画～地域のタカラ、地域の子カラで湯ノベーション～」を策定。「人気温泉地ランキングにおける順位を全国10位以内に引き上げること」を目標に掲げ、民間事業者、地域、行政（市・山口県）が強く連携し各種事業を展開していくビジョンを描いている。また、同計画では、魅力的な温泉街の形成に不可欠な6つの要素として、「風呂（外湯）」「食べ歩き」「文化体験」「そぞろ歩き（回遊性）」「絵になる場所」「休む・佇む空間」を設定した。また、将来ビジョンの形成にむけた核となる視点として「癒され方改革」というキーワードをあげ、抜本的なハードとソフトの再構築に取り組んでいる。

夜間景観の背景)

宿泊観光地である「温泉街」にとって「夜間景観」は非常に重要であり、前述の「人気温泉地ランキング」の上位に位置する各温泉地のほとんどが温泉地らしい夜間景観を形成しているといえる。また今日においては、本市が掲げる6つの要素のほとんどにおいて、照明効果は大きく影響している。

インターネットによる温泉地決定や情報収集におけるSNSの普及により、フォトジェニックな環境は以前にもまして重要な要素となっており、魅力的な夜間景観の実現によって夜間の回遊性や滞在時の満足度を高めることによる地域への経済効果は大きい。

また今日では、まちレベルでのエネルギー管理やIoTによる情報収集など、照明環境の再構築によって様々なみらいのまちづくりへの展望が図れる。

本計画は、「長門湯本温泉観光まちづくり」において、夜間景観のあるべき姿を検討し、実現に向けた公共照明整備の具体的な方策や照明計画の方向性を示すものである。また、本マスタープランとともに、民間敷地における照明計画に関する作法として『長門湯本温泉景観ガイドライン「夜間景観編」』を策定検討する。

1-2.計画区域



区域の位置づけ

景観計画区域

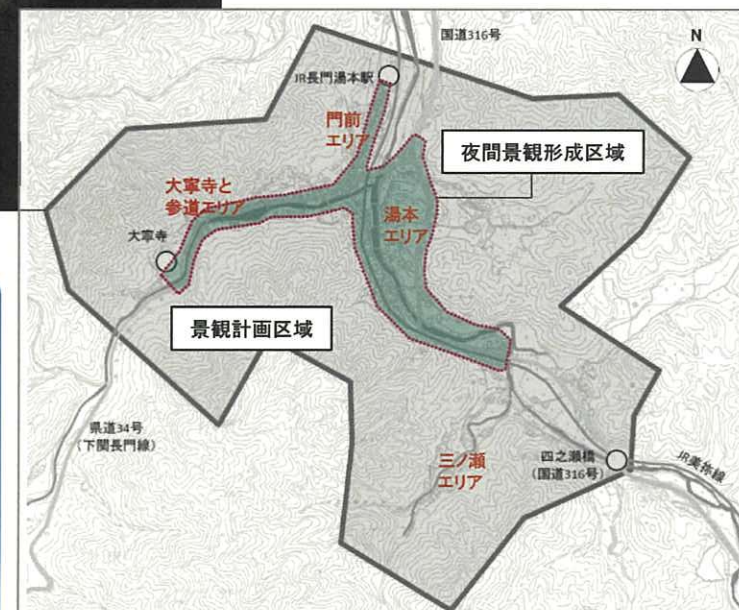
門前・湯本（大寧寺と参道含む）・三ノ瀬の3エリアを対象地域ととらえ、
エリアごとに目標とする夜間景観を検討する。

夜間景観形成区域

重点区域を含む「夜間景観の改善と更新」を中長期的に目指す区域として設定する。

夜間景観重点地区

景観再整備ゾーンを含む、長門湯本の観光まちづくりにおいて最重要なエリア。
短中期的に夜間景観整備を推進する。→本マスタープランの内容



1-3. 夜間景観の性質と各区域の夜間景観形成方針

夜間景観形成地区内の各エリアの性質を鑑み、大きく「観光」「河川」「遊歩」「住宅」に分類し、形成の方向性を見極める。

	観光 夜間景観	河川 夜間景観	遊歩 夜間景観	住宅 夜間景観
目標とする 夜間景観形成の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 温泉地らしい非日常の情緒を感じさせ、観光客のそぞろ歩きや写真撮影を喚起する景観形成 旅行地選択に有効なビューと視点場の整備 フォトジェニックな場面の創出 観光客と住民にとって安全安心な環境 	<ul style="list-style-type: none"> 温泉地の河川らしい非日常の情緒を感じさせ、観光客のそぞろ歩きや写真撮影を喚起する景観形成 旅行地選択に有効なビューの形成 	<ul style="list-style-type: none"> 温泉地のアクティビティとしての遊歩空間の整備 地域の物語や歴史を感じさせる仕掛け 観光客と住民にとって安全安心な環境 	<ul style="list-style-type: none"> 温泉地に隣接する住宅エリアとして、安全安心で良好な夜間景観を形成する ランドマークが点在する場合は演出を検討し、地区内の回遊性を高める要素とする
実現のための キーワード	<ul style="list-style-type: none"> 長門湯本温泉らしさ 和の情緒 ランドマークや特別な演出など回遊性を高める工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 川を活かす（視覚・聴覚） 樹木など自然を活かす 長門湯本温泉ならではの演出 	<ul style="list-style-type: none"> 低色温度 自然と営みを活かす 民間のあかりの活用 	<ul style="list-style-type: none"> 「景観ガイドライン」での誘導
照明計画の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 温かみのある光（低色温度） 和の造形要素 鉛直面の明るさ感（石垣や樹木のライトアップ） ランドマークの演出 エンターテインメントな光 	<ul style="list-style-type: none"> 視点場やビューの設定 異なる風景の出現 連続性や見通し 明る過ぎない、でも歩ける 	<ul style="list-style-type: none"> 温かみのある光（低色温度） 小さなあかりの点在 鉛直面の明るさ感（石垣や樹木のライトアップ） 自然と営みを活かす 	<ul style="list-style-type: none"> 温かみのある光（低色温度） 窓からの漏れ光 暗さを活かす工夫
本地区内での 主たる対象エリア	<ul style="list-style-type: none"> 湯本地区中心部 大寧寺と参道 	<ul style="list-style-type: none"> 音信川流域 各橋梁 	<ul style="list-style-type: none"> 市道湯端平町線 市道湯本線、湯本東線 市道湯本礼湯線 地蔵の小道（大寧寺参道） 	<ul style="list-style-type: none"> 門前地区 三ノ瀬地区
他都市の事例	 <p>山形・银山温泉</p>	 <p>兵庫・城崎温泉</p>	 <p>高野山奥の院園路</p>	 <p>京都東山界隈</p>

夜間景観重点地区

* 湯本地区の一部の住宅エリアは
夜間景観重点地区の範囲とする

2.長門湯本温泉の夜間景観のめざすもの【夜間景観重点地区・光のマスタープラン】

2-1.基本の考え方

夜間景観の基本的視点

安全性

- ・安全な歩行ができる明るさの確保
- ・安心感のある夜間環境

美しさ

- ・美しさや感動を与える景観
- ・フォトジェニックな景色

過ごす・使いこなす

- ・夜間の活動を誘発するあかり
- ・環境の使いこなしを意識した計画
- ・心地よく過ごしたくなる夜時間創出

環境配慮

- ・省エネルギーに配慮した照明制御
- ・IoT、スマートシティ化



長門湯本温泉らしさ

その場所ならではのあかり

【川の風景を活かす】

- ・川床のあかり
- ・橋の演出
- ・川の魅力を照らす
- ・川沿い建物の見え方

【ビューを意識する】

- ・足湯からのビュー
- ・雁木からのビュー
- ・駐車場からのビュー
- ・滞留視点場からの建物ビュー
- ・軒先に長門湯本提灯の並ぶ風景
- ・SNSを意識した記念撮影のできるポイントづくり
- ・竹林、桜並木など緑の演出
- ・エンターテインメントの検討

【観光地らしさ フォトジェニック】

- ・住吉神社
- ・各橋梁
- ・旅館ファサード 等
- ・萩焼などの工芸品や地域の素材
- ・歴史的な物語の要素 等

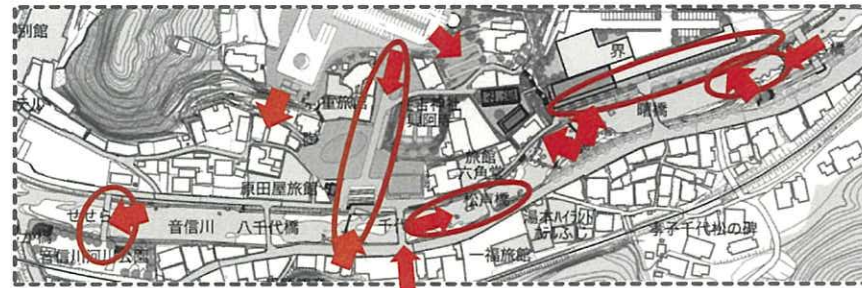
- ・照明ポイントの配置による回遊性を高める計画

【ランドマークを活かす】

2-2 要素の整理

計画のもととなる、ビューやランドマーク、動線について整理する。

◇主要なビュー



- 五つの主要ビュー
- ・大階段からの見下ろし、雁木広場からの見上げ
 - ・千代橋からの河川景観
 - ・足湯からのビュー、見上げ
 - ・曙橋やきらきら橋からの桜と河川景観
 - ・河川公園対岸からのせせらぎ橋と公園の桜

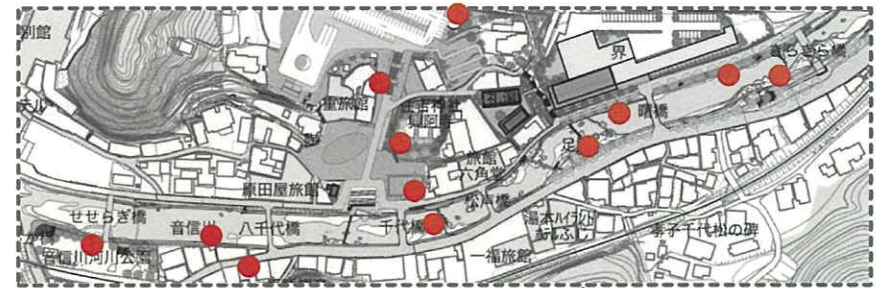
また、以下のビューも考慮事項とする
駐車場からの見下ろし、各橋梁からの見通し、河川沿道からの河川ビュー、河川内からの見上げ

◇橋梁



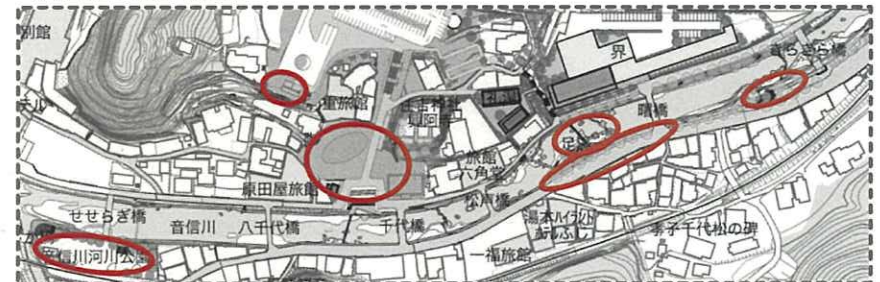
せせらぎ橋、八千代橋、千代橋、松声橋、沈下橋、曙橋、きらきら橋の七橋

◇主要なランドマーク



恩湯、礼湯、住吉神社、大寧寺、豊川稲荷、馬頭観音、川床、桜並木、竹林、泉源、足湯、旧恩湯のネオン

◇広場や活用領域



展望広場、大階段、雁木広場（メイン広場）、河川公園、足湯広場、上流雁木広場、道路空間活用

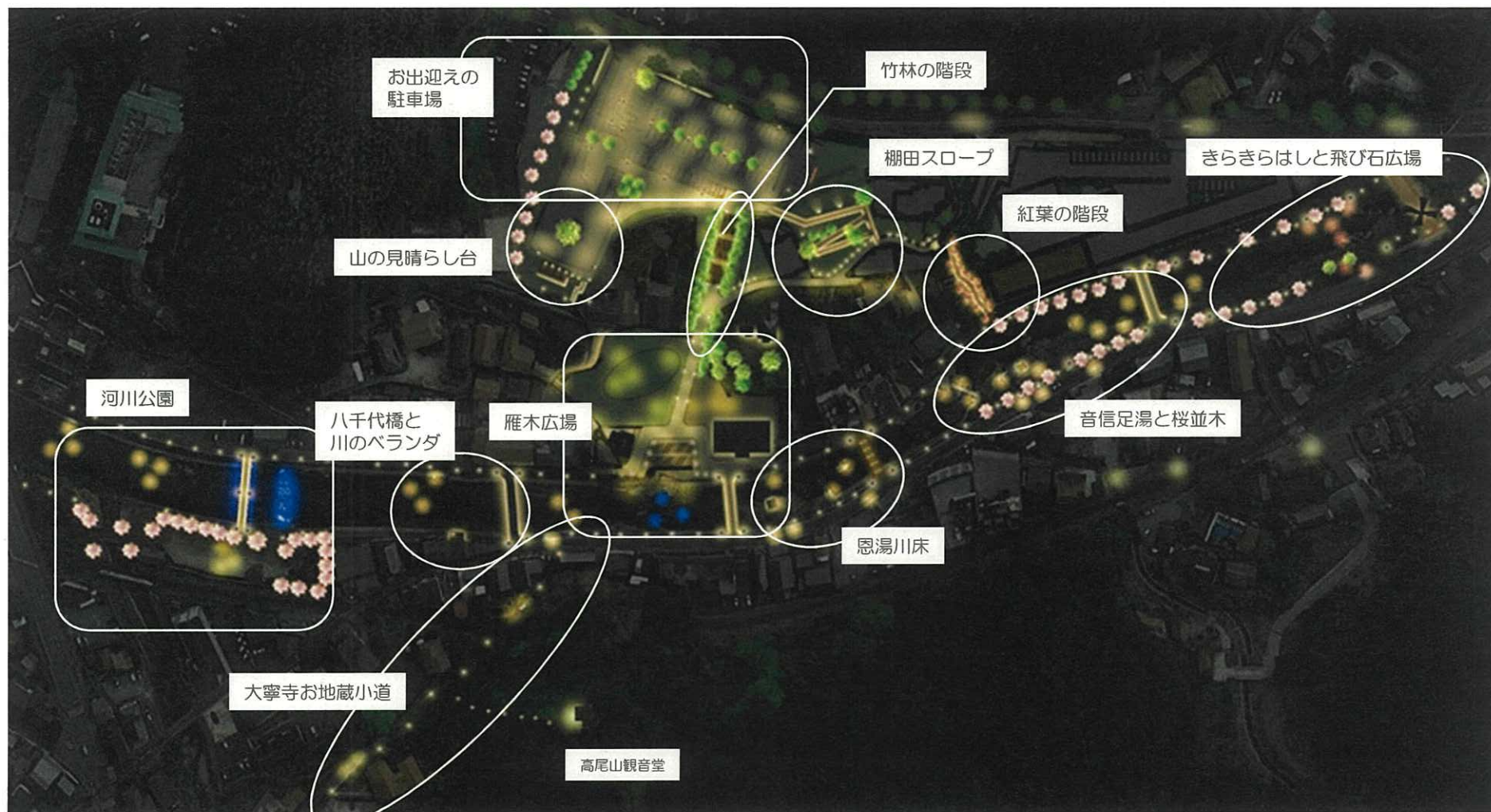
◇歩行者回遊動線・深夜同線（今後の検討）→点灯時間管理



*歩行者の回遊目線や深夜の交通状況に対し点灯時間管理を的確に実施する

2-3 .【夜間景観重点地区】における あかりのゾーニング

夜間景観重点地区は、ランドスケープ計画とリンクしたゾーニングを行い、照明計画は、それぞれのゾーンコンセプトに応じて設定される。



2-4 .【夜間景観重点地区】における各ゾーンの考え方

照明計画の元となるゾーンコンセプトを以下のように設定する。

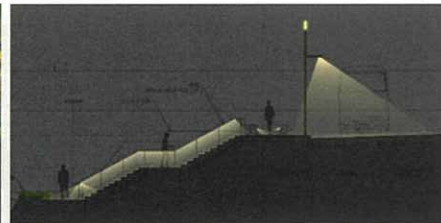
ゾーン	目標とする夜間景観イメージ
お出迎えの駐車場	・安全安心な明るさの確保・通過車両にも長門湯本温泉への期待感を感じさせる景観 ・恩湯ネオンは撮影スポットに
山の見晴らし台	・長門湯本温泉への期待感を感じさせる上からのビュー ・ビューを阻害しない低位置照明
竹林の階段	・日本的な長門湯本温泉の風情を感じるインパクトのあるお出迎えのゾーン ・オリジナル行灯
雁木広場	・地域の核となる「佇みたくなる」夜間景観。使いこなしのシーンや映したくなるポイントがちりばめられた風景。
恩湯川床	・長門湯本温泉を象徴する夜間景観 川床が際立ち「行ってみたい」期待感にあふれた夜景 ・川床からのビュー
紅葉の階段	・圧倒的な紅葉シーンが撮影できる夜間景観 ・紅葉を活かす低位置照明
棚田スロープ	・スロープそのものがランドマークとなる演出 ・歩行の安全安心
音信足湯と桜並木	・足湯からのビューを磨き上げる照明計画 ・「足湯に行かなきゃ損する」風景 ・沈下橋、桜、曙橋を魅せる
きらきはしと飛び石広場	・「夕涼みは川で遊ぶ」夜にも渡れる明るさ、飛び石そのものがランドマーク
八千代橋と川のベランダ	・川を眺められる工夫
河川公園とせせらぎ橋	・橋の演出をランドマークに ・桜のライトアップとイベント活用に対する電源設備の充実
大寧寺お地蔵小道	・夕刻のそぞろ歩きを楽しめる工夫 ・民間エリアも重要
音信川 右岸道路	・あかりの連灯による音信川河川景観を継承する。 ・親柱照明の和デザインリニューアル ・連続する低位置照明
音信川 左岸道路	・右岸と同様に加え、道路空間のにぎわい活用を前提とした照明設備 ・桜（柳）のライトアップ
高尾山観音堂	・ビューポイントあるいは訪問地としての位置づけの検討

3. 各ゾーンの方向性

3-1. お出迎えの駐車場 【深夜省エネ・webカメラにより来訪者データ収集】



- ・安全安心な明るさの確保・通過車両にも長門湯本温泉への期待感を感じさせる景観
- ・エネルギー消費の高い駐車場には時間や駐車状況に合わせた点灯調光のできるIoT照明制御を設ける。



谷筋に向かったビューを阻害しない、低位置照明によって見下ろしの快適な環境をつくる。



旧恩湯のネオンサインは、歴史を物語るライトオブジェとして活用 (撮影スポット)

上部にインジケーターのあるプロムナード照明。遠方からもしっかりと視認できる。

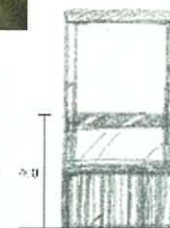
3. 各ゾーンの方向性

3-2. 竹林の階段



竹林ライトアップ

- 日本的な長門湯本温泉の風情を感じるインパクトのあるお出迎えのゾーン
 - 竹林のライトアップ
 - オリジナル行灯
- * 配置計画は最新の配置図を参照



特注デザイン行灯

* 萩ガラス仕様も検討

3. 各ゾーンの方向性

3-3. 雁木広場



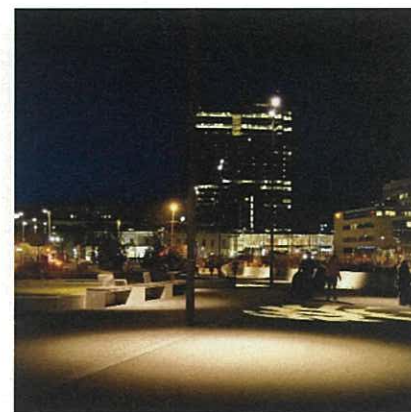
- ・広場と雁木広場は、ハイボールスポットライトで路面照射し、路面の明るさを確保しながらも恩湯の漏れ光や演出照明を阻害しない工夫をする。
- ・河川内は、飛び石や川床を両岸に設置したボールスポットライトで照らし明るさを確保する。また、雁木前には、定刻でのカラー演出を実施し、夜間のエンターテインメントなビューをつくる。



- ・飛び石を照射し、定刻でカラー演出する。
- ・河川内樹木は、水中照明によってライトアップする。
- ・雁木広場は、外側から照らす。



配管のできない石垣上へは、ソーラータイプの照明を設置。
※萩ガラス仕様も検討



ボールスポットライトで路面のみを照らす。



スポットライト型のボール照明は落ち着いた印象とともに、しっかりと路面照度が確保できる。

3. 各ゾーンの方向性

3-4. 紅葉の階段



- もみじの緑や紅葉を楽しめるよう、階段の明るさは手すり照明によって確保（光源が目線に入らない）
- ライトアップの明るさは、季節や時間によって細かく制御する



紅葉ライトアップ



手すり照明のみで通路階段を照射した事例



3. 各ゾーンの方向性

3-5. 棚田スロープ



- スロープそのものがランドマークとなるように、手すり間接照明でその形状を浮き上がらせる。路面の明るさも確保。
- 樹木と石垣のライトアップで安心感を高める。



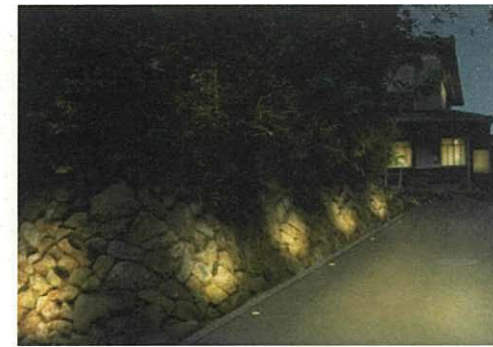
樹木ライトアップ



手すり照明のみで通路階段を照射した事例



ダブルアームも可能



石垣を地中埋設照明で照らし安心感を高める。

3. 各ゾーンの方向性

3-6. 各橋梁



【せせらぎ橋】木造の吊柱をカラーライトアップ、地覆部・路面への間接照明



【千代橋】欄干を利用した間接照明を設置し路面の明るさを確保
(写真は2017社会実験の様子)



【松声橋】欄干柱部前に足元照明を設置



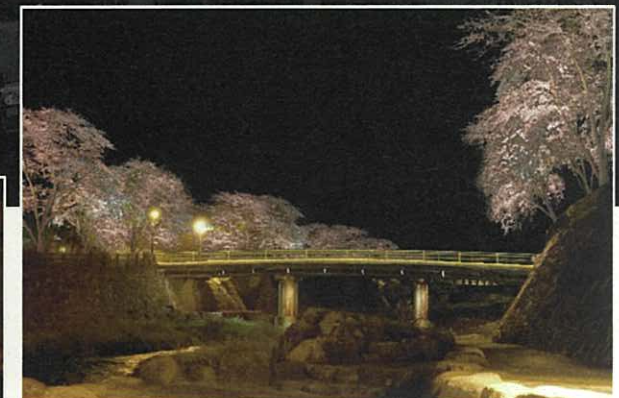
【きらきら橋】
既存の照明設備のLED化



各橋梁を異なる手法で照明し、歩行の明るさとめぐる楽しみを創出。
遠景のビューとして【せせらぎ橋】へはカラーライティングを実施し、そぞろ歩きのきっかけをつくる。



【沈下橋】河川沿い歩道や足湯からのビューを鑑み、橋と瀬を河川外からスポットライトで照らす。自然を感じ河川の暗がりを無くすランドマーク。

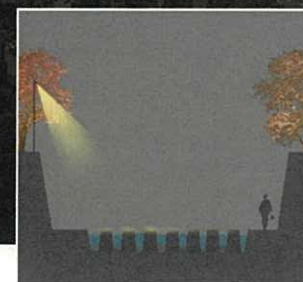


【千代橋】足湯からのビューを鑑み、地覆側面への間接照明と橋脚へのライティングで橋のシルエットを映し出す。路面は欄干笠木に間接照明を設置し歩行の明るさを確保

3. 各ゾーンの方向性

3-7. 音信川の演出

各橋梁や右岸左岸から望む音信川の修景として、川床や瀬への照射を実施。川そのものをフォトジェニックに演出する。特に雁木広場など滞留箇所から見える場所については、演出性の高いカラーライティングを導入。時間をあらかじめ設定して眺めを楽しめるようにする。



飛び石の照明手法



川床の照明手法



フォトジェニックな沈下橋と瀬のライティング（社会実験時）



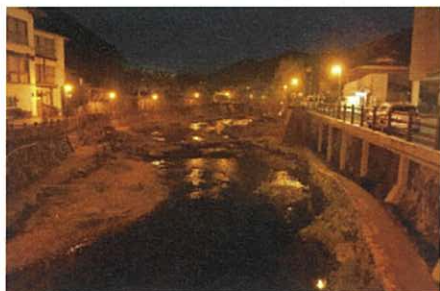
川床の照明手法



部分的な水辺のカラー演出（海外）

3. 各ゾーンの方向性

3-8. 音信川右岸・左岸 道路の照明



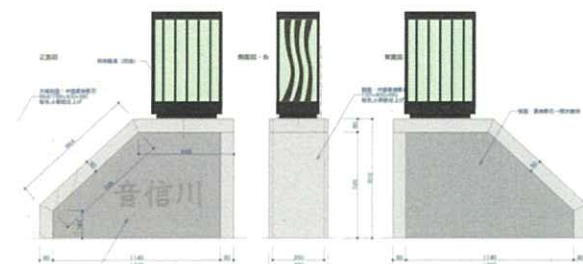
【現状】

温かみのある色温度の低いナトリウム灯は好感が持てるが、グレア（不快なまぶしさ）が高く改善が必要。LED化とともに、グレアを軽減することが望まれる。

【景観】・連続するあかりによって、温泉街らしいフォトジェニックな景観を継承する。

- ・桜や柳など、河川域の並木のライトアップにより、歩行者にも安心感と満足度の高い景観を形成する。
- ・LED化と深夜の減光・消灯を制御することで大幅な省エネルギー化を行う。
- ・親柱照明は和の情緒を感じさせる低位置照明に変更
- ・手すりと調和する低ポール照明で、河川際のリス無をつくる

【活用】・道路空間の活用によるにぎわいづくり等での利便性を高める電源装置等の設備化及び上記を想定した道路照明の配光



オリジナルの親柱行灯(案)

- ・親柱照明はポール型から低位置照明に変更
- ・和風もしくは大正ロマンのモダンデザインではないデザインコードを使用する

3. 各ゾーンの方向性

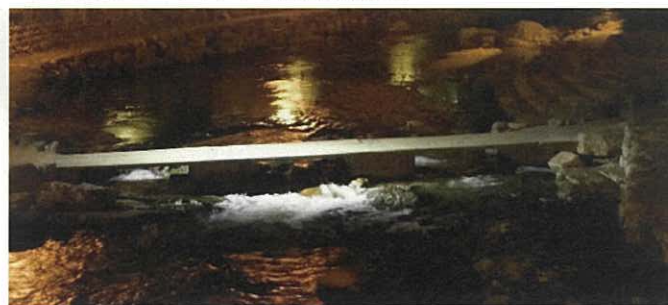
3-9. 音信足湯からのビュー



足湯からの見上げのビューを意識した様々な演出を実施。



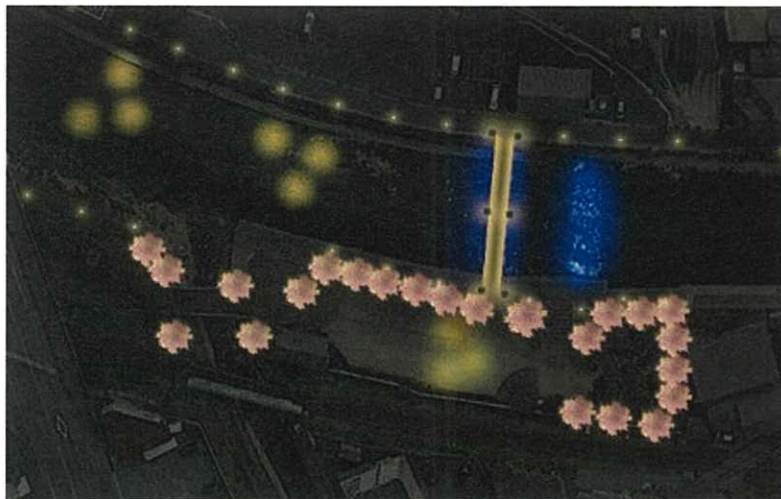
曙橋には、足湯からのビューを鑑み、橋脚や地覆など下からのビューを意識した演出を行う。桜並木は「色温度変化」のある機材を使い、毎時0分には通常の電球色から白色にかわるなど上品なエンターテインメント性を持たせる。



沈下橋のライトアップ。

3. 各ゾーンの方向性

3-10. 桜の演出・河川公園



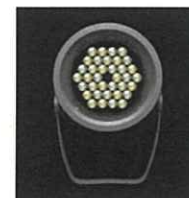
立派な桜並木のある河川公園は、音信川河畔ともに「桜の名所」として位置付けていく。イベント会場としても有効な河川公園は、屋台などのための「イベント用電源設備」の整備が望ましい。



桜（存置の柳が残る場合は柳も）のライトアップを通年で実施し、地域の季節の名所として位置付けていく。ライトアップは、通常を電球色とし、毎日2回程度決まった時間に白色に変化させるなどエンタテインメント性を付与する。

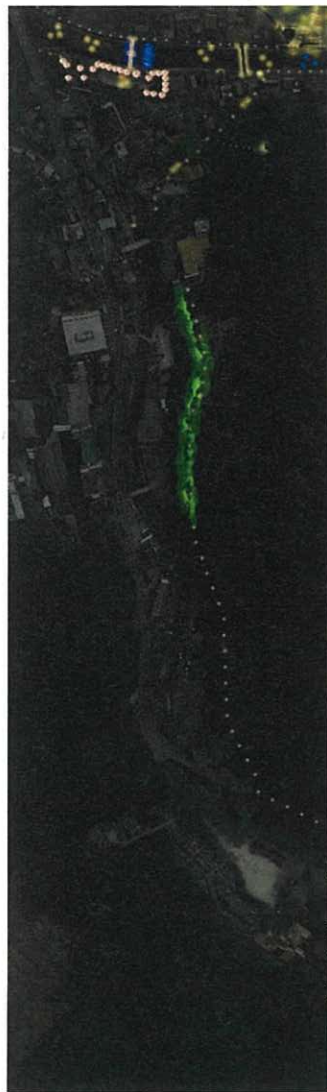


桜並木のライトアップ例



3. 各ゾーンの方向性

3-11. 大寧寺参道“お地蔵小道” 高尾山観音堂



大寧寺参道である小道は、
そぞろ歩きができる環境に整える。

- 点在するお地蔵様と竹林などの民間地樹木のライトアップ
- オリジナル行灯
- ポールスポットライト（地面照射）
- サイン計画を含む入り口出口イメージの確立

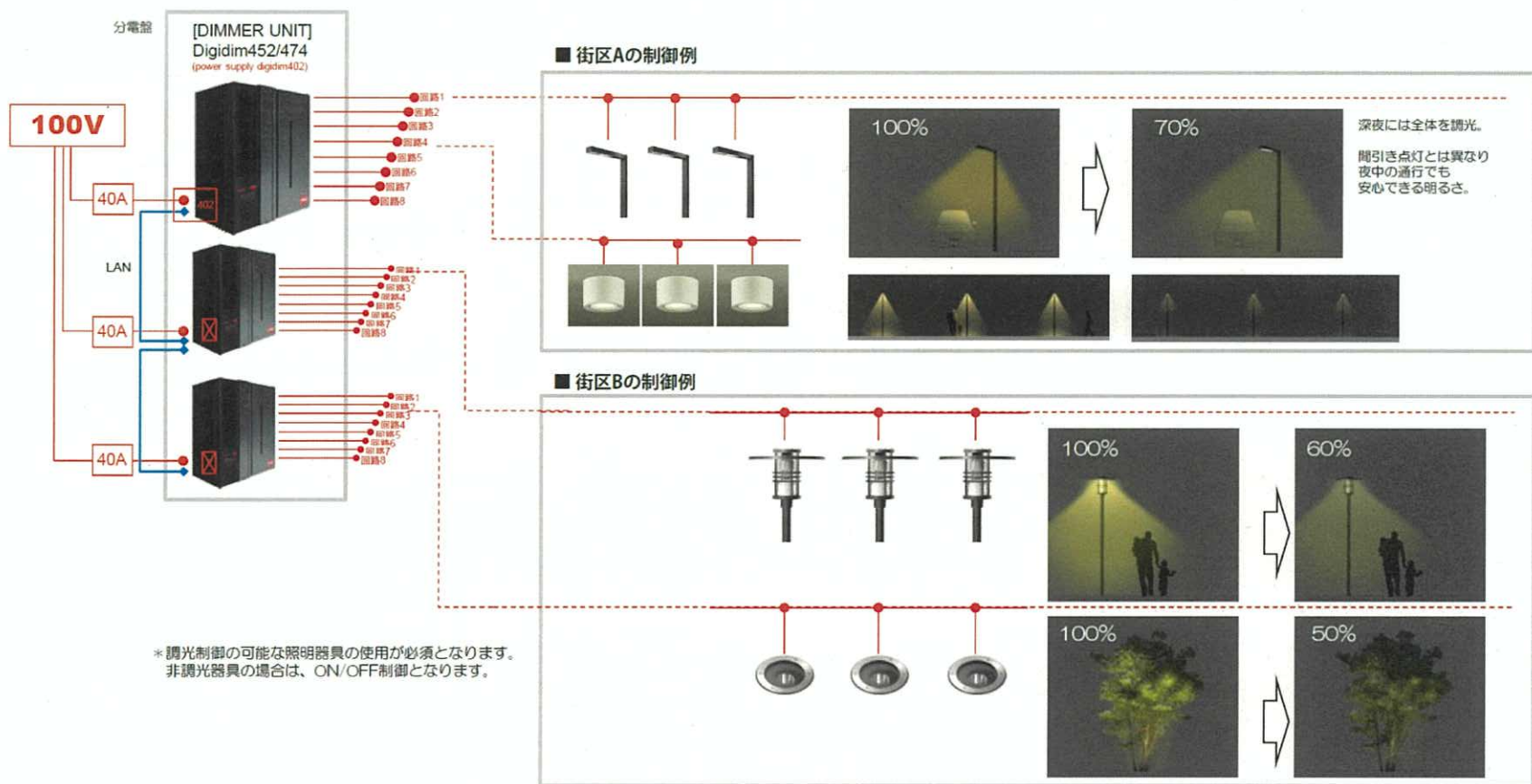
高尾山観音堂はビューポイントもしくは
散策スポットとして検討する。

4. 照明制御について

【Smart System】・・・道路や駐車場などの様々な長時間点灯エリアに対し、環境クオリティを下げずに大幅な調光を行うシステム。間引き点灯→調光制御

* 全域での導入を想定

- ・各照明器具を単独もしくは回路ごとに制御可能（制御方式はDALIとし、PWM調光器具にはコンバータを使用しライン制御）
- ・深夜の大幅な減光もしくは省エネルギーができる
- ・電源供給とは無関係に、ターミナルのLAN接続で、同一の点灯プログラムを実行できる（工期が分かれた案件で同一の外構制御が可能）
- ・場所に余裕があれば通常の分電盤の中に納めることが可能



長門湯本温泉景観ガイドライン（案）
夜間景観編（抜粋版）

■ 夜間景観に関するルール

“訪れたくなる風景” “散策する楽しさ” “住まう誇り” につながる「長門湯本温泉らしい夜間景観」のために以下の6つの項目に対して守るべき目標を設定します。

- ①あかりの色(色温度).....温泉地らしさのために
- ②あかりの点灯時間.....安全安心を強化
- ③豊かな緑を活かすルール.....誰もが感じる美しさ心地よさと安心感
- ④まちの顔づくり.....長門湯本だとひとめでわかる夜景をつくる
- ⑤まちのシンボルや特徴を活かす...町全体をミュージアムへ
- ⑥サイン/看板の照明上質な観光地にふさわしいデザインへ

1. あかりの色

まちのあかりの色は、電球色にしましょう。

- ・黄色く、暖かみのある光の色を“電球色”と呼びます。
- ・温泉街や住宅地では、寒々しい白色の光よりも、情緒的で落ち着いた色のある電球色が似合います。
- ・蛍光灯にもLED電球にも電球色があります、



右が電球色
「電球色」「2700K~3000K」と書いてあります。



X 白色のさびしい旅館街



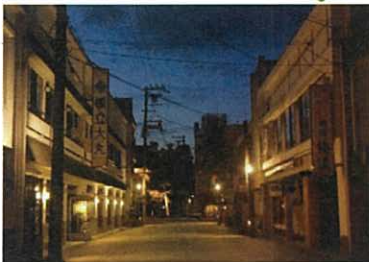
X 白色の旅館宴会場



X 白い防犯灯が目立つ住宅街



O 落ち着いた電球色での統一



O 電球色のおちついた旅館街



O 電球色の上質感のある旅館宴会場



O 電球色のあたたかな住宅街



O 旅館らしい外部のあかりを電球色での統一

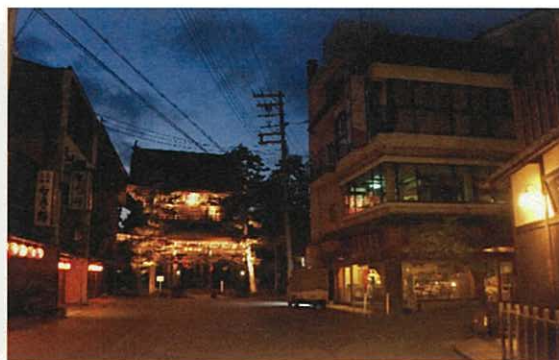
2. あかりの点灯時間

門灯や軒先の提灯などの外部の明かりや、道に面した窓際やお店のあかりは22時まで点灯しましょう。

- ・夜のそぞろ歩きが楽しく、暗がりのない安全安心な街並みをつくりましょう。
 - ・タイマーを付ければ、自動で点灯・消灯をすることも可能になります。
- また光源がLEDであれば、点灯時間を長くしても電気代は僅かにしかかかりません。
(7WのLED電球1つあたり、5時間点灯で ひと月あたり28円程度です。)



× 街灯、建物の漏れ光もなく歩行に不安のある道



○ 建物の漏れ光や軒先の提灯が点いており
安心感と情緒のある通り(天橋立)



○ 建物2階の灯りは、閉店後も点灯している(倉敷)



○ 庭園や室内あかりの漏出し



○ 置き照明による演出

3. 豊かな緑を活かすルール

道や広場に面した樹木は、できるだけライトアップしましょう。

- 昼間は癒しを与えてくれる樹木ですが、夜になると影になり暗がりをつくってしまいます。道や広場から見える庭木をライトアップすることで、安心感と心地よさをまちにもたらしめます。
- 参道や散策路など民間敷地の緑がまちの景観をつくっている場合も多いので、わずかでも樹木のライトアップができれば、大きな安心感のある貴重なまちの風景となります。
- ライトアップも、暖かみのある電球色のあかりで行いましょう。



× 樹木が暗がりをつくっている



× 松林があるが、真っ暗で何も見えない



× 街灯があるが、樹木が影になっており暗いプロムナード



○ 外構周縁部の演出・門・樹木



○ ライトアップで樹木が主役になった旅館の中庭



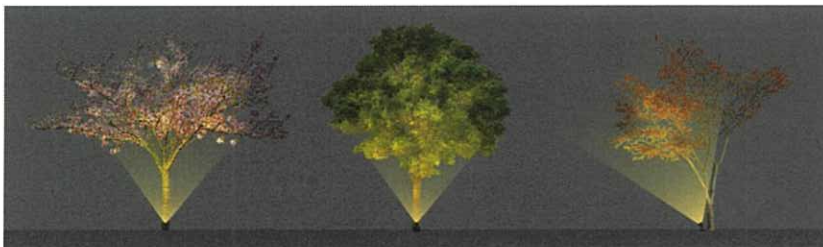
○ 立派な松がライトアップされ見えるようになり、夜の散歩ができるようになった。



○ 樹木がライトアップされ、安心感のある歩いて楽しいプロムナード



○ 敷地外周部の演出



樹木ライトアップのコツ

樹木は、ほぼ真下から幹に沿って照らしてあげます。落葉樹でも、樹形をしっかりと照らすことで、冬も美しい風景をつくれます。桜や紅葉のような、大きく横に広がった枝の場合は、外側からも照らしましょう。明るさは電球色LEDで、5m程度の中木で1000ルーメンが目安です。

4. まちの顔づくり

軒先に長門湯本温泉オリジナルデザインの提灯をつけましょう。

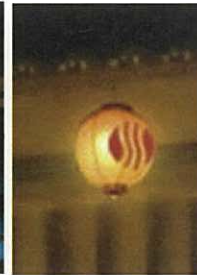
- ・共通のデザインの提灯を街中の軒先につけることで、「ひとめで長門湯本温泉だとわかる風景」「ここでしか見れない街並み」をつくることができます。
- ・長門湯本温泉のオリジナルデザインの提灯を掲げ、情緒的な温泉街の夜景づくりを行いましょう。



○ 通り毎に異なる、オリジナル提灯が情緒的な雰囲気をつくる。(京都)



○ 軒先にオリジナル提灯をつけた様子



オリジナル提灯デザイン案



5. まちのシンボルや特徴を活かす

まちのシンボルをライトアップしましょう。

- ・大寧寺や住吉神社のような由緒ある寺社仏閣、三ノ瀬の登り窯、街の中に多く見られる石垣や橋などは、長門湯本温泉ならではの大切な景観資源です。また、足湯・源泉などの施設、旧恩湯のネオンなども、新たにつくられる恩湯施設などのランドマークとともに、まちの物語を語るシンボルです。これらのシンボルの演出やランドマークのライトアップによって、今まで以上にまちの記憶を大切に「行ってみたい・住みたい長門湯本温泉」に育てていきましょう。



× 暗闇で何があるか夜間にはわからなくなっている



○ 住吉神社の階段のライトアップ



○ お地藏様の小道の演出イメージ



○ 石垣のライトアップイメージ

6. サイン・看板の照明

下記のような看板は、温泉地や住宅地に相応しくないなので、できれば改善しましょう。

○眩しすぎる ○派手な色彩 ○速い速度で動く・点滅する ○大きな音ができる

- ・白すぎる内照式の看板は、落ち着いた温泉地には似合いません。既存の看板がある場合は、眩しさが夜間景観阻害の原因となる場合もあるので、買い替えなどのタイミングで電球色に変えましょう。
- ・切文字（箱文字）型のバックライト文字や、外から照らす板状の看板は、上質な印象や和風のまちなみをつくれます。
- ・提灯や行灯のような和風のものは、内照式でも情緒があるため、推奨されます。



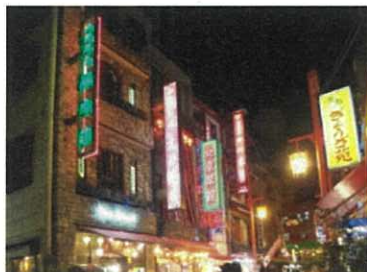
○ 切り文字の看板



○ 外照式の看板、提灯の看板



○ 行灯の看板



× 派手な内照式看板・原色のネオン



× 派手な内照式看板・原色のネオン



× 派手な色、速い動きのある看板